

# 2017年度(2018年3月期)通期 決算説明会



2018年5月14日

大正製薬ホールディングス株式会社

代表取締役社長 上原 明

# 2017年度(2018年3月期)通期 決算説明会



2018年5月15日

大正製薬ホールディングス株式会社

代表取締役社長 上原 明



# 2017年度通期決算：概要

(億円)

	2016年度	2017年度	前期比増減		予想比*
売上高	2,798	2,801	+3	+0.1%	+6
セルフメディケーション	1,800	1,840	+40	+2.2%	+5
医薬	998	961	-37	-3.7%	+1
営業利益	320	370	+50	+15.7%	+35
経常利益	380	421	+41	+10.8%	+36
親会社株主に帰属する 当期純利益	288	317	+29	+10.1%	+17
1株当たり当期純利益(円)	360.18	396.54	-	-	-

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算

\*2018年2月1日時点予想との対比



# 2017年度通期の概況：SM事業

(億円)

	2017年度 累計	前年同期比 増減		要因
SM事業全体	1,840	+40	+2.2%	
SM国内	1,502	+5	+0.3%	
リポビタンシリーズ	547	-38	-6.4%	市場ダウントレンド等の影響
パブロンシリーズ	289	+26	+9.9%	新製品が貢献
リアップシリーズ	165	+5	+3.0%	主力品X5プラスの伸長
その他	500	+12	+2.4%	通信販売事業*伸長
SM海外	309	+34	+12.4%	

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算

\*大正製薬ダイレクト売上高：2017年度 99億円

<ご参考：市場の状況（前年同期比）>

国内OTC医薬品市場 +0.6%

（インテージSDI・SRIデータをもとに当社推計、金額ベース）



# 2017年度通期

## SM国内：主要ブランド売上高

(億円)

	2016年度	2017年度	前期比増減		予想比*
リポビタンシリーズ	585	547	-38	-6.4%	-3
パブロンシリーズ	263	289	+26	+9.9%	+9
リアップシリーズ	161	165	+5	+3.0%	+3
ヴェックスシリーズ	36	40	+4	+11.4%	-0
胃腸薬シリーズ	40	39	-1	-1.7%	-0
リビタシリーズ	38	35	-3	-8.6%	+0
ナロンシリーズ	34	32	-2	-6.3%	+1

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算

\*2018年2月1日時点予想との対比



# 2017年度通期 SM海外：売上高

(億円)

	2016年度	2017年度	前期比増減		予想比*
SM海外	275	309	+34	+12.4%	+0
ドリンク剤	94	108	+15	+15.9%	+0
OTC医薬品	172	186	+14	+8.2%	+0
アジア	151	165	+14	+9.3%	+0
その他	20	20	+0	+0.1%	-0

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算

\*2018年2月1日時点予想との対比



# 2017年度通期の概況：医薬事業

(億円)

	2017年度 累計	前年同期比 増減		要因
医薬事業	961	-37	-3.7%	
エディロール	254	+28	+12.4%	骨粗鬆症治療薬のベース薬として浸透
ゾシン	98	-57	-37.0%	後発品の影響等を受け減少
ボンビバ	65	+6	+10.0%	市場が横ばいの中、シェアを拡大
ルセフィ	50	+21	+73.0%	SGLT2阻害剤市場の拡大
ロコア	31	+12	+68.2%	高い臨床効果の認知の広がり

注：金額は億円未満四捨五入  
増減は百万円単位で計算

<ご参考：市場の状況（前年同期比）>

医療用医薬品市場	+0.8%
・SGLT2阻害剤市場	+50.5%
・抗菌薬市場	-9.5%
・ビタミンD3市場	+6.8%

(Copyright © 2018 IQVIA. JPM2016年4月-2018年3月をもとに作成、無断転載禁止)



# 2017年度通期

## 医薬事業：主要製品売上高

(億円)

	2016年度	2017年度	前期比増減		予想比*
			増減	増減率	
エディロール	226	254	+28	+12.4%	+3
ゾシン	155	98	-57	-37.0%	+5
クラリス	93	77	-17	-17.8%	+2
ボンビバ	59	65	+6	+10.0%	-1
ルセフィ	29	50	+21	+73.0%	-1
パルクス	54	49	-5	-9.2%	+1
ジェニナック	52	44	-8	-15.2%	-1
ロコア	18	31	+12	+68.2%	-5

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算

\*2018年2月1日時点予想との対比





# 2017年度通期：売上高・利益の増減要因

(前期比増減額)

売上高 (+3億円)	セルフメディケーション事業 (+40億円)	医薬事業 (-37億円)
営業利益 (+50億円)	売上総利益* +48億円 (売上総利益率* 前期63.7% → 当期65.3%)	
	販管費 -3億円	
	(内訳)	
	・研究開発費	-1億円
	・広告宣伝費	+5億円
	・販売促進費	-14億円
	・人件費	-6億円
・その他	+14億円	
営業外損益：持分法投資損失 16億円 (前期比-10億円)		

\*返品調整引当金繰入・戻入調整後

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算



# 2018年度：通期業績予想

(億円)

	2017年度 実績	2018年度 予想	前期比増減	
売上高	2,801	2,690	-111	-4.0%
セルフメディケーション	1,840	1,865	+25	+1.4%
医薬	961	825	-136	-14.1%
営業利益	370	330	-40	-10.8%
経常利益	421	395	-26	-6.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	317	555	+238	+75.2%
1株当たり当期純利益(円)	396.54	694.62	-	-

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算



# 2018年度予想

## SM国内：主要ブランド売上高

(億円)

	2017年度 実績	2018年度 予想	前期比増減	
リポビタンシリーズ	547	543	-4	-0.7%
パブロンシリーズ	289	286	-3	-1.0%
リアップシリーズ	165	160	-5	-3.2%
ビオフェルミンシリーズ	86	94	+7	+8.4%
ヴィックスシリーズ	40	41	+1	+1.8%
胃腸薬シリーズ	39	38	-1	-2.4%
リビタシリーズ	35	36	+0	+1.2%

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算



# 2018年度予想 SM海外：売上高

(億円)

	2017年度 実績	2018年度 予想	前期比増減	
SM海外	309	325	+16	+5.1%
ドリンク剤	108	116	+7	+6.8%
OTC医薬品等	186	195	+9	+5.0%
アジア	165	173	+8	+5.2%
その他	20	21	+1	+3.1%

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算



# 2018年度予想

## 医薬事業：主要製品売上高

(億円)

	2017年度 実績	2018年度 予想	前期比増減	
エディロール	254	260	+6	+2.4%
ボンビバ	65	73	+8	+12.3%
ルセフィ	50	65	+15	+30.8%
ゾシン	98	48	-50	-50.9%
クラリス	77	46	-31	-39.9%
ロコア	31	45	+14	+47.5%
ジェニナック	44	35	-9	-20.6%

注：金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算



# 2018年度予想：売上高・利益の増減要因

(前期比増減額)

売上高 (-111億円)	セルフメディケーション事業 (+25億円)	医薬事業 (-136億円)
営業利益 (-40億円)	売上総利益* -66億円 (売上総利益率* 前期65.3% → 当期65.6%)	
	販管費 -26億円	
	(内訳)	
	・研究開発費	-1億円
	・広告宣伝費	-17億円
	・販売促進費	+3億円
	・人件費	-14億円
・その他	+3億円	
営業外損益：持分法投資損失 7億円(前期比 +9億円)		

\*返品調整引当金繰入・戻入調整後  
金額は億円未満四捨五入 増減は百万円単位で計算



# 医療用医薬品：新薬パイプライン(1)

## 大正製薬開発品：申請中

(2018年5月14日現在)

	特長他 予定適応症	開発形態	国内／海外
申請中			
タウリン散98% 「大正」	MELAS <sup>1)</sup> における脳卒中様発作の再発抑制 ※適応追加	自社	国内

1) MELAS: Mitochondrial myopathy, Encephalopathy, Lactic Acidosis and Stroke-like episodes  
(ミトコンドリア脳筋症・乳酸アシドーシス・脳卒中様発作症候群)



# 医療用医薬品：新薬パイプライン(2)

## 大正製薬開発品：フェーズ2以降

(2018年5月14日現在)

	特長他 予定適応症	開発形態	国内／海外
フェーズ2			
TS-091 (経口)	中枢性過眠症	自社	国内
TS-152* (注射)	抗TNF $\alpha$ 抗体 関節リウマチ	自社	国内
TS-141 (経口)	小児 注意欠如・多動性障害(AD/HD)	自社	国内
TS-133 (外用)	脱毛症	自社	国内
TS-142 (経口)	不眠症	自社	国内
TS-121 (経口)	うつ病	自社	海外

\*TS-152：一般名：Ozoralizumab



# 医療用医薬品：新薬パイプライン(3)



## 大正製薬開発品：フェーズ1

(2018年5月14日現在)

	対象疾患	自社／導入	国内／海外
フェーズ1			
TS-071* (経口)	2型糖尿病	自社	海外
TS-091 (経口)	中枢性過眠症	自社	海外
TS-134 (経口)	統合失調症	自社	海外

\*TS-071：一般名：ルセオグリフロジン水和物、国内販売名：ルセフィ



# 大正製薬グループの方向性

- 「セルフメディケーション事業」と「医薬事業」をバランスよく成長させながら、企業価値の最大化を目指す

## その実現に向けて

- セルフメディケーション事業
  - 国内：需要の創造と強いブランド作りのための活動強化
  - 海外：進出している地域におけるプレゼンスの向上
- 医薬事業
  - 新薬の売上最大化および継続的な新薬上市に向けた取り組みの強化



# 今後の取り組み

- セルフメディケーション事業(国内)

## 需要を創造し、強いブランドを作る

- ✓ 生活者の健康意識の高まりやニーズの変化に対応する商品の開発と育成に努める
- ✓ 生活者との接点の拡大と共感の獲得を目指した活動を実践する



# 今後の取り組み

- セルフメディケーション事業(海外)

持続的な成長の実現へ向け、  
進出各国での上位ポジションの獲得を目指す

✓ 東南アジアを中心とした成長市場における  
事業展開の強化

◆ 新たなユーザーの開発

⇒ 主カブランドの周辺領域における新製品の開発 等

◆ 中長期的な成長基盤獲得へ向けての取り組み

⇒ 新たな国、OTC以外の領域への展開等、M&Aも含め検討



# 今後の取り組み

- 医薬事業

## 新薬の売上最大化および継続的な新薬上市に向けた取り組みの推進

- ✓ 新薬(ルセフィおよびロコア)の製品価値を向上させ、売上最大化を図る
- ✓ 開発品の早期承認取得を目指すとともに、導入による製品・開発パイプラインの拡充を図る
- ✓ 外部機関・他社との提携や先端技術の活用等により、革新的なオリジナル医薬品の創出を図る



# 環境変化への対応

薬価制度の抜本改革や、ヘルスケア領域への他業界からの参入もあり、製薬業界をめぐる環境変化は著しい。

⇒これら急速な環境変化に対応するために  
より機動的な経営判断ができる体制を構築する

そのため、下記2項目を決議した。

■大正富山の100%子会社化

■当社国内グループ会社の早期退職優遇制度

# 資本提携解消について



## 当社・富士フイルムHD・富山化学間における 合併関係を発展的に解消

- ✓ 富士フイルムに対して当社保有富山化学の全株式を売却
- ✓ 富山化学が保有する大正富山医薬品株式会社の全株式を取得し、完全子会社化
- ✓ 大正富山による富山化学品の販売については継続
- ✓ 特別利益418億円

# 早期退職優遇制度の実施について



- 対象者 勤続10年以上かつ40歳以上の従業員  
(一部グループ会社を除く)
- 募集人数 特に定めず
- 募集期間 平成30年7月1日～平成30年8月10日
- 業績予想数値に割増退職金  
及び 再就職支援費用を一定程度織り込む





# 株主還元について

- 2017年度配当：
  - 1株当たり110円(配当性向:34.1%\*)
  - (中間50円、期末60円)
- 2018年度配当(予想)：
  - 1株当たり110円(配当性向:40.3%\*)
  - (中間50円、期末60円)
- 配当、自社株買いの方針は変更なし
  - 配当性向30%(特別損益を除く)を目途、持続的な安定配当の実施を目指す
  - 特段の事情がない限り、1株当たり100円の年間配当を維持する

\*配当性向は、特別損益を除いた当該期純利益により算出